

# 十勝岳

1993. 9. 13

馬場

アトラストレックの大雪山連峰スキーツアーに参加を申し込んだ。ところが参加人員が少なく中止になってしまった。そのかわり、田家さんが現地主催の十勝岳登山とスキーツアーがあるので参加した。

九時羽田を出発、北海道新聞社内、道新文化センターに着く。ガイド役六名を含めて六十名、全部現地の人達だ。大型バスで白金温泉、国立青年の家に着く。二段ベットの大部屋に泊まる。

明日の天気が心配だが吹雪の予報で良くない。

9. 14

七時半、バスで出発。風も強く雪で視界が悪い。望岳台 900M地点の駐車場に着く。レストランも無人で吹雪で $-5^{\circ}$ 以下の寒さだ。素手でシールを着けていると手がかじかんでくる。いよいよ出発だ。スキー組は十一名、カンジキ組の方が多い。左側のリフト沿えに十五度位の斜面を登行する。

現地の人々の話では、リフトは、鉱山用にできたもので、許下がでていないので動かないとのことだ。

前の人から離れると見えなくなるので必死だ。気温も次第に低くなり風雪も強くなる。二本目のリフトを過ぎると斜度も少しずつ急になる。リフト終点 1250Mに着く。そこから十分位行くとほろっぴ避難小屋があった。

急いで中に入る。昨日登って小屋にテントを張っている三人の若者に会う。

遅れてカンジキ組が着く。リーダーの川越さんが、行けるところまで行くことになり、自信のない人は小屋に残ることに決定した。

目出帽、オーバズボンなど持ってこないのが残ることになった。十一名小屋で待期する。テントの三人も登頂をあきらめて下山した。動かないと寒いので足踏みをして過ごす。何回か外に出てみたが猛吹雪だ。弁当を食べたが冷くて食欲がない。

登山組もほぼを真赤にして寒そうに帰ってきた。昭和噴火の近くまで登ったらしい。凍傷寸前だったそうだ。

登山組も弁当を食べ下山する。

斜度も適当で晴天なら新雪を快調に滑れるのだが、視界が悪く吹きだまりもあり慎重に下降するだけだ。

それでもスキー組の方が早く望岳台の駐車場に着いた。

次の日、好天なら札幌の近くの山をスキーウェアに連れて行くというリーダの川越さんが約束してくれたが朝ホテルから電話したがやはり天気が悪く無理だった。

コースタイム  
望岳台 8:00 ----- 避難小屋 10:30 ~ 12:30  
~~~~~ 望岳台 14:00

